



ちゅうじき

送り大師

観音寺では昼食



大師像のに入った厨子。背負われてきた

逆井観音寺への到着は、五月四日正午である。一日に、今年の結願区の長全寺（柏）を出発した送り大師の一行が、沼南・白井・鎌ヶ谷・松戸などの写し札所を参拝し、四日の昼食が逆井観音寺（六十九番誓光院）となった。連綿と続く東葛印旛大師講である。名物・牡丹の花が、雨にぬれたまま、満開である。その雨もやんで、太陽さえ顔を出した。法螺貝の音とともに到着した。背負われた送り大師の厨子にはビニールがかけられていた。札所、観音堂、本堂と般若心経が響く。それが終われば昼食。本堂に吸い込まれる。同行二人の人たち。背負ってきた送り大師の木像も大気を吸い込み、和尚が供物を備える。五日には増尾の少林寺へ、来年の結縁区が引き継がれる。

末広クラブ・逆井漫步170 平成24年5月

観音寺本堂。憤怒の不動様が見守っている